

11 復活の希望

イエスは十字架上で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」（わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか）と、神に疑問を投げかけて息絶えた。たしかにイエスは、死の瞬間、父なる神に見捨てられたと感じられたのである。我々もまた、「神の御子がなぜ？」と天を見上げて問いを発する。

しかしイエスの生涯を見よ。イエスへの疑問を通して我々に深い神の真理が示される。イエスはこの世のどん底に生まれることによって、どん底の人々と連帯し、悔改めの必要な罪人と連帯するために、身を低くしてヨハネから洗礼を受け、この世で過酷な侮辱を受けている人々と連帯するために、最も悲惨な侮辱に耐えられた。すべての人を愛し救うために……。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」の悶絶死も、我々罪人が当然神に見捨てられる苦しみと死を、神

が罪なきイエスに真先に味わわせたのではないか。それは神に見捨てられて当然の我々を救うために、神が涙と共にうち給うた先手ではないだろうか。

しかし見よ、その壮絶な死の淵から、全能なる神はイエスをよみがえらせ給うた。死は終りではなく、その先に復活があったのだ。復活の力はキリストの父なる神にのみある。神は愛である。命である。全能である。御子キリストの十字架の苦しみと死は、罪深き我らを永遠の滅びから救い出すための神の御業であった。我らは、これを心に信じたとき、現実には罪の赦しと復活の希望を与えられる。

それゆえ、イエス・キリストを信じる者は、召される時が来ても、安心してこの世を去ることができる。主のよみがえりに与る希望を抱いて……。

(2000年4月『復活』第401号)